| 事業所名 | 児童発達支援 RacucuruNEO | 支援プログラム | 作成日　令和 | 7 年 | 1 月 | 5 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 法人（事業所）理念 | | もっと楽しくを創造する。<br>個性＝個星　特性＝特星<br>こどもファースト | | |
| 支援方針 | | 利用者様を第一と考え、常に快適で満足していただける空間を提供します。<br>利用者様を尊重し、社会的自立の形成を育めるようサービス提供します。<br>利用者様の気持ちを癒し常に楽しい心持でお帰りいただけるよう鋭意努力します。 | | |
| 営業時間 | | RacucuruNEO　９：００～１９：００ | 送迎実施の有無 | (あり)　なし |
| | | 支　援　内　容 | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | お箸・フォーク等を自ら使って食べれるように視覚的に提示する。<br>本児が出来そうなお手伝いを促す。　健康的な生活リズムを習得するための健康チェックシート・おめめどうを活用（食事・排泄等を含む）　日常生活動作の基本となる動きを学ぶ | | |
| | 運動・感覚 | トランポリンや粗大遊びを促し、衝動的な行動へ発散を促す。<br>サーキット遊びのなかでバランス感覚や力の強弱を学ぶ。<br>アイロンビーズを使って手指訓練を行う。<br>スライムを使って気持ちを落ち着かせる。<br>お散歩や公園遊びのなかで体の使い方を学ぶ。 | | |
| | 認知・行動 | 絵本・絵カード・パズル・積み木等で基本的概念の習得をする。<br>決めた約束事は書いておき、振り返りが出来るようにする。<br>切り替えるときはタイマーを用いて促す。<br>物の個数や、重さや形、機能や属性の認知形成ができるように、普段から意識して会話をする。<br>五感を使い必要な情報を収集し認知機能の発達を促す。 | | |
| | 言語<br>コミュニケーション | 指さしではなく、言葉で伝えられるように、スタッフがまずお手本の言葉で模倣する。<br>言葉の習得（絵カード・絵本の読み聞かせ・SSTカードを使って）をする。<br>文字・記号、絵カード、おめめどうなどのコミュニケーション手段を活用する。 | | |
| | 人間関係<br>社会性 | 苦手な活動の際には本児が出来そうな役割を提供し、積極的に参加できるように促す。<br>視覚支援ツール（おめめどう）を用いて１日の流れに見通しをもたせて安心して活動に取り組めるようにする。活動に対してどれだけ集中できたかを評価する。<br>保育者や他児を交えたごっこ遊びの提供をする。<br>手順やルールの理解を促す為の失敗と成功の経験をする。 | | |
| 家族支援 | | 日常生活において、本人の思いや家族の思いをやりとりする場面を増やす。<br>保護者の気持ちに寄り添い、困り感に助言できるように定期的に相談できる機会を設ける。<br>本人のコミュニケーションや仕草等で気になったことを帰りの送迎時や面談の際に共有する。<br>イベントや地域交流活動を開催し事業所の見える化を務める。 | 移行支援 | 保育園や幼稚園、こども園への移行に際し、園生活に必要な支援を行う。<br>学校や機関等と日常的に情報交換を行い連携を図る。実際に園生活に移行できた場合は状況により担当者が見学に伺い、先生と面談を行う。 |
| 地域支援・地域連携 | | 一般の学校へのインクルージョン（包容）を推進する。<br>関係機関で役割分担を行い、お互いに情報交換し共有する。<br>連携会議を定期的に開催し、情報収集・役割分担について協議する。<br>各関係機関からの情報に基づき、具体的な場面での子どもとの関わり方の提案や関わり方のポイントにつてい助言を行う。 | 職員の質の向上 | 年間を通じた定期的な勉強会を開催する。外部研修へ積極的な参加をする。 |
| 主な行事等 | | ・地域社会の一員として活動に参加できるよう、地域のイベントや活動の機会を提供する。<br>地域の福祉祭りやイベントに参加・児童館との交流会を開催する。子供たちが作った作品を展示し販売を行い、地域との関係を深める。 | | |